

# チェコのローカル線を訪ねて-2007-初夏①

高島 伸幸

## はじめに

6月に幸運にも続けて休暇を取得することができました。こうなればヨーロッパです。

以前からチェコのレールバスが気になっていた上、チェコ国鉄がローカル線の整理に動き出すという情報が流れていたの「これはチェコしかないな」と決めました。半日でも日程を無駄にすることはできず。以前よく使っていたエールフランスの夜行便を利用することにしました。

いろいろと調べてみたのですが、格安航空券でも15~20万ぐらいで、それに燃料費調整加算が付きますから高い高い。昼行便の他の日系や欧州系でも同じです。為替相場も影響しているのしょうね。

幸い私はエールフランスの会員ですのでホームページから特別割引運賃を利用しました。税金や燃料費差額も加えて込み込み184450円。これが一番安かったのですが、いままで海外旅行で支払った航空券の代金の中で高額の方に該当します。それとは対照的にチェコ国鉄の2等に5日間乗り放題のチェコフレキシーパースは13700円でした。

## 2007年6月12日(火)晴れ

京成上野17:55発のイブニングライナー51号で成田空港へ。前売り分を除いて定員制なのでホームの券売機で購入します。

すでに京成の株優を入手していたのでそのまま改札を入りホームへ。列が伸びていたが進まないのをおかしいと思うと、これは乗車待ちの列で券売機はその先にありました。パスネットで400円の特急券を買います。停車駅は多いですがスカイライナーより格安です。

通勤者で結構な乗車率となり、ほとんどの

座席が埋まりました。ギリギリに乗り込んだグループは並びの座席は無理です。この時間は上野から直通の一般特急の運転が無いのでこれは助かります。

成田空港に19:06到着。ここまで乗車した乗客は数えるほどで、さっそく出発カウンターへ。今回もeチケットを利用、事前座席指定を済ませており、ネットのチェックインも済ませてあるので搭乗券を受け取るだけです。

手荷物検査場を抜け出国審査へ。機内持ち込みの制限が厳しくなったといいますが、あまり変わっていないようでした。ただ、確かに飲み物は持ち込めないようでした。

リフレッシュルームへ行き、あらかじめシャワーを浴びておきます。乗り継ぎの外国人で混んでいましたが、すぐに順番が回ってきました。あと出発まで1時間です。

A F 2 7 7 便は定刻の21:55に出発。機種は777-300でシートテレビが付いています。しかし、安全の説明になっても私の座席は映りません。乗務員に申し出ると反対側の2つ前の通路側へ席を移動することになりました。

水平飛行に移ると飲み物が配られます。いつものようにシャンパンを頼むとボトルからカップに注いで渡されました。以前はミニボトルをだったのに。ちょっと残念です。

食事を取ると急に眠くなり、いつもなら映画を見るのですが、朝食まで何回か飲み物を取りに行った以外はひたすら寝ていました。



チェコフレキシーパース

## 2007年6月13日(水)晴れ

なんかあつという間にヨーロッパ上空を飛んでいます。朝食が配られ食べ終わると、まもなくパリに4:15到着しました。

乗り継いでプラハに向かいます。チェコは当時シェンゲン協定に加盟していなかったため、パリで入国せずに税関外乗り継ぎバスでターミナルを移動します。しかし、乗り継ぎバスの待合室には数人しか来ませんでした。

1時間ぐらい待つとやっとバスが動き出します。カフェが開いているエリアがあるので、いったん出るとフランス入国の手続きをしないとイケません。

バスで移動して、ターミナル2Bへ。搭乗口がわかりにくく、何回かカウンターで確認します。何のことはありません。搭乗時間にならないと搭乗口に入れないのです。手荷物検査で引っかかったため、何かと思えば薬を飲むのに買った水のペットボトルでした。その場で飲み干し解決です。

7:15発のAF1382便は定刻より10分遅れて出発しました。なんと機内はビジネスマンでほぼ満席です。水平飛行に移るとすぐに飲み物と簡単な朝食のサービス。そして8:55にプラハ到着です。

入国審査を済ませて、とりあえず少し両替してから外に出ます。プラハ市内まではバスと地下鉄の乗り継ぎ。市内交通案内所で切符を買います。運賃はゾーン制で90分有効で20コルナでした。



R702レ Karlovy Varyにて

地下鉄の終点まで行く119系統の市営バスに乗車して、きっぷを車内の刻印機に入れて自己改札します。乗り場には電光表示で行き先と時刻が出ているので親切です。途中から路面電車が併走しました。どうやら26系統に乗ればプラハ中央駅のそばを通るので、地下鉄はやめてトラムへ乗り継ぎます。

ものすごい加減速です。これくらいメリハリある走りなら遅くありません。なお、バスも地下鉄もトラムもセルフ改札です。きっぷはあらかじめ用意すること。ぐるぐると方向感覚が麻痺しそうになるほど曲がって、20分位でプラハ中央駅前の公園の横に着きました。

ちょっとあぶない人たちがいる公園を早足で横切って構内へ。まず、チェコフレキシールパスにバリデイトしてもらいます。国内線の窓口では、国際線の窓口へ行けと言われてしまいましたが、無事日付を入れてもらえました。次は時刻表の入手です。迷い方に書いている窓口はなく、それらしいところでも「売り切れた」と言われます。仕方なく、構内に貼られた時刻表で当面の日程の確認を行いました。

当初の予定通り、11:19発のR702レに乗車します。しかし、15分遅れてやってきました。コンパートメントの普通車は、発車して市街地を抜けるとドレスデン方面の幹線を川沿いに走ります。しかし、カーブが多い。電化されているのでEL牽引で、いちおう急行なのですが冷房はありません。

Usti nad Labem hl.n.の手前で本線から分かれて、急カーブの短絡線でUsti nad Labem zapadに停車しました。ここからCheb方面の路線へ入ります。食堂車が連結されているはずなのでお昼を食べに行きました。

まず、飲み物はビール動物の絵が描いてあるピンビールを飲みます。これがうまい。あっさりしているのにこくがあります。メニューに英語が添えてあって、何の料理かはだいたいわかりました。定食は99Kc均一です。鶏肉のマッシュルーム炒めを頼みます。付け合せ

はジャガイモでした。

ちなみに食堂車も非冷房で、注文をとりに来た人がウェイター兼コックでした。そうです。一人で食堂車を切り盛りしています。下車駅までまったりと過ごして、会計をすると154Kcでした。

Karlovy Varyに5分遅れの14:50に到着。乗り継ぎ予定の列車は非情にも目の前で接続を取らずに発車していった。駅員に文句を言うと、5分待てばすぐ来るとのこと。確かに続いてレールバスが入ってきます。

ちなみにチェコのほとんどの駅は駅舎の前に線路が敷いてあり、線路と線路の間にホームがあります。しかし、列車が入ってくるのは必ず駅舎前の線路ということではなく、何本かの線路を渡った先のホームの場合もあります。ホームといってもレールの高さほどで、幅も複線間隔ほどしかありません。客車に乗り込むときはひと苦労で、ほとんど線路から乗り込むのと同じです。そして、他の線路に列車が入ってくる場合があるので十分注意しないと轢かれてしまいます。

チェコの温泉街の中でも最大規模のカルロヴィ・ヴァリですが、町の中心は本線の駅前にはなく、支線に乗り換えて一駅乗ったところが街の中心になります。

近くの支線から直通してきた単行のレールバスはワンマン運転。これも5分遅れの15:02に27124/5レは発車しました。しかしすぐにブレーキを掛けて停まったのです。運転士がエンド交換して逆向きに発車して、ポイント



Karlovy Vary dolni nにて



食堂車の昼飯

を渡ると再びエンド交換して発車しました。何のことはなく、停まったホームから直接支線に出られない配線だったためのようです。

右へ右へカーブを切り、本線をアンダークロスして川沿いへ降りて行くと、鉄橋を渡るとKarlovy Vary dolni n.に5分遅れの15:07に到着しました。しかしここから乗る予定だったローカル線は定刻に発車したようで、姿がありません。発車時刻の案内も2時間後の列車を表示しています。

駅にいても仕方が無いので、温泉街を散策することに。荷物をコインロッカーに預けようと思うと金庫のようにダイヤルが難解で手に負えません。手荷物窓口に一時預かりの表示が出ていたので頼むことにしました。

チェコの温泉は飲む温泉で共同浴場のようなお風呂はありません。時間もあったのでひと風呂浴びたいところですが、飲泉用のカップを買って飲み比べです。途中には間欠泉もあって、楽しかったですが、観光客が多い。

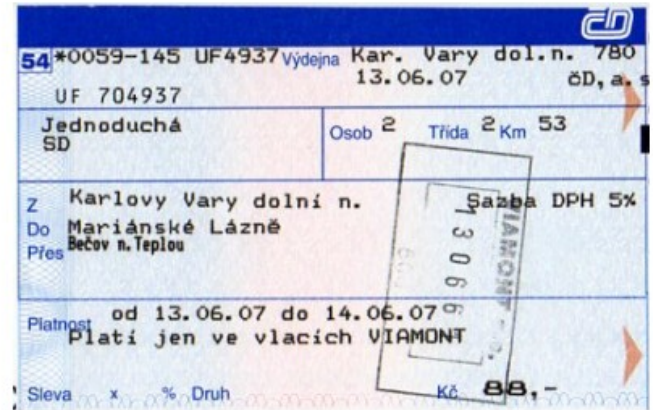
駅に戻り、荷物を受け取ります。なお、料金は後払いでした。念のため駅の窓口を確認するとこの先は私鉄のため、チェコフレキシープスは使用できないようで、別に乗車券88Kcを買います。17:00発の7161レに乗車しました。(VT41)ドイツで走っているトラムみたいな形をしている連接レールバスです。走り出すと「タンタンタン」と2軸車特有の音と、振動が感じられます。しかし、ひなびた路線で、線路は草生しており、運転士の顔なじみ

なのか助手席に女性を座らせ話をしながら運転しています。

しかし、沿線人口が少ない中を走って行きます。ほとんどが森と放牧地に畑で、途中駅では数人ではあるが乗客の乗り降りがあります。助手席に座っていた女性も草原の中の停留所で降りました。家はどこにあるのでしょうか？国鉄の支線との接続駅のBecov nad Teplouからお年を召した国鉄職員の夫婦が乗ってきました。運転士は丁寧に男性を運転室に招き入れ、助手席を勧めました。おそらく、「立派な車両になったなあ。」などと話していたのでしょうか。

自転車を持ち込んだ若いカップルは前面展望に夢中です。国鉄の支線はしばらく併走し、山の中で分かれてゆきました。こちらは、溪谷をトンネルと鉄橋を繰り返して進み、丘陵を降りてゆくとMarianske Lazneに18:20に到着しました。ここも温泉町でして、先ほどのところよりひなびているので落ち着くかもしれません。ここも駅前には町外れのため、駅は閑散としています。駅前広場にはこの程度の街なのに本数は少ないですが温泉街と結ぶトロリーバスが通っています。それも新型が来たのにはびっくりしました。

Chebからの急行列車18:39発R759レに乗車します。手小荷物合造車で車内はコンパートメントで非冷房です。チェコ国内の列車にはほとんど冷房車はみかけません。シートがビニールレザーなので、汗をかくとちょっと気持ち悪いです。



私鉄区間の乗車券

単線だが電化されていて、古めかしい電気機関車が牽引します。途中丘陵地なのかトンネルや切通しの多い区間を走り、畑や放牧地の中を右に左に交換を繰り返しながら進んでゆきます。急行らしく停車駅は少ない。

10分遅れの19:58にPlzen hl.n.に到着しました。まだ明るいのですが、駅前というのに人通りが少ない。インターネットで予約してある今夜の宿Astry Hotelは駅前であり、すぐに見つかりました。小さいホテルですが新しくきれいで、一応4つ星ホテルなのでエアコンが付いています。朝食つき1150Kč

シャワーを浴びてから早速食事をしに行きます。目をつけていたビール会社直営のビアホールは今日は営業していなかったもので、旧市街へ歩いて行きます。なんとか広場をチラッと見て、旧市街の入り口にあったレストランに入りました。まずはビール。なみなみと先ほどの工場製が500ml注がれて出てくる。やっぱりうまい。チェコはやはりビール天国だ。食事は魚料理にしました。よく分からなかったのですが、おそらくタラダと思う白身魚のムニエルです。付け合せはライスで、これがなかなかいけました。会計は137Kčで、いい気分になってホテルへ帰りました。

## 2007年6月14日(木)晴れ

今日だけ朝寝坊です。ホテルの朝食はちょっと豪華でスープがありました。駅へ向かうと若者でごった返しています。しかし、発車番

線が分かりにくい。通過式上下線ホームの間に駅舎があり、その間に行き止まり式のホームが挟まっています。目的の列車を見つけたときは発車3分前でした。

8:03発急行のR841レに乗車します。今日はオープン客車で、4人向かい合わせのBOXシートです。発車直前に校外学習らしい小学生が乗ってきました。とたんに車内はにぎやかに。

市街地を出ると丘陵に畑が広がり、右に左に進んで行きます。山へ向かうローカル線へ乗り継ぐStrakoniceに9:04到着。レールバスが2編成停まっていて、赤い帽子の駅員に行き先を確認してから乗り込みます。チェコ国内のあらゆるところで使用されているこのレールバス、車内は4人と6人のBOXシートで、ビニールレザーのベンチシートです。更新された車両はモケット張りに変更されていますが座布団は薄い。なおトイレは付いています。

9:12発の18104レはレールバスがトレーラーを引く2両編成ですが、貫通路はありません。一駅二駅で降りてゆくお客がいて、ボックス1〜2人となりました。バラストは薄くて、タンタンタンと2軸車特有の乗り心地が味わえます。小さな集落に入るとCkyneで対向のレールバスと交換します。発車してポイントを過ぎると停まって車掌を乗せました。無人駅なのでポイントを定位に戻したのです。

森と畑と灌木地が続いて。1時間ほど走ると森の中をひたすら登るようになります。突然街が広がるとVinperkに到着しました。エンジンを休ませるためか25分の停車です。ほ



18104レ Vinperkにて

とんどの人が降りてしまい、車内に残ったのは女の子一人だけでした。発車時間が近づくとどこからか少し人が集まってきました。といっても10人くらいですが。用務の帰りという感じで、買い物袋をぶら下げています。

再び勾配を登って行くと峠の頂上らしいKubova Hutで停まりました。駅前に数件の民家がありますが何もありません。しかし、眺めはよく、そしてここで降りてゆく人がいます。車掌が手旗を持って、ポイントを切換えに行きます。しばらくすると警笛が聞こえて、レールバスがやってきました。交換して、こちらが発車すると、ポイントを通過したところで停車して車掌を乗せました。

勾配を下って行き灌木の中から別の路線が近づいてくるとVolaryに5分遅れの11:58に到着です。ここで約1時間の接続待ちとなります。駅近くのホテル兼食堂で昼食を取ることとしました。この1軒しかありませんから選択肢は無いのですが。

まずはビール。サーバーから注がれたビールはまた違うビールでコクがあってとってもおいしい。注文を取りに来たので、とにかく早く食べれるものをお願いすると「ワンプレートOK?」と聞かれたのでOKと答えておきます。するとフライドポテトの上に鶏肉の長ネギ炒めが載ってきました。これがまたおいしい。

急いで食べて会計して駅へ戻るとさっき乗車していたレールバスが停まっていた。13:01発18550レに乗車すると来た道に戻って行きます。先ほどの路線が右手の灌木の中に



18550レ Volaryにて

消えて行きます。流れるままの自然の川を渡るとカーブに乗っている人がいました。

無人駅にひとつ停まり、突然左手の灌木の中から線路が現れて合流すると13:09にCerny Krizに到着しました。森に囲まれたこの駅は駅のほかに何も無ありません。でも駅員はいます。車掌に13:16発の8146レCeske Budejovice行きはどのホームから出るの?と聞くと反対側を指差します。しばらくするとレールバス2両がトレーラー2両を挟んだ4両編成が到着しました。そして今まで乗ってきた2両はこの列車の後部に連結。なんとレールバスだけの6両編成となりました。

さっき合流した路線へ入って、しばらく灌木の中を進みます。人家は見当たりません、自然のままです。湖が見えてくると人家が現れて、ホテルなどが多くなります。どうやら湖畔のリゾートのようです。湖が見えなくなると丘陵の谷間を右に左に車輪を軋ませながら勾配を下って行きます。

Polecniceで列車交換です。相手もレールバスを運んだ編成で、続いてKajovでは単行のレールバスと交換しました。この交換相手の列車はなぜかCesky Krumlov始発でお客様の少ない区間だけ走るのです。通学対応なのでしょうか?

世界遺産のCesky Krumlovに停まり、ちらっと街の裏側が見えました。丘陵地に畑が広がる中を走って行くと、右手から電化単線が近づいてきて合流しました。市街地に入るとCeske Budejoviceに10分遅れの15:53に到着で



バスに乗り換え Dyniにて



8146レ Cerny Krizにて

す。レールバスに2時間半ずつ計5時間たっぷり乗りました。

駅の案内所に行くと、鉄な絵はがきが売っています。チェコ国鉄の路線図も売っていたのでそれもついでに買っておきました。念のため「時刻表はありますか?」と尋ねると「きっぷうりばにある。」とのこと。窓口申し出ると飾ってあった1冊を渡されました。値段はなんと10Kc。迷い方に書いてある半値以下です。

16:10発急行R663レに乗り換え。コンパートメントに入ると検札に来た車掌から目的地を聞かれます。早速地図を見せて説明すると、「Dynin Change Bus」とのこと。どうやらバス代行区間があるようです。Dyniに着くとみなぞろぞろと列車から降りてゆきます。狭い駅前にはおんぼろバスが4台くらい停まっていたり乗客と乗務員が乗り込むと出発しました。なおバスには冷房はありません。

すぐに整備された国道を走ります。右手に線路があり、ところどころ工事をしています。10分くらいで市街地へ入り、左に曲がって、坂をあがるとVeseli nad Luznicí駅に到着しました。再び列車に乗り込み、Jindrichuv Hradecには30分遅れの17:44に到着です。

この駅からはナロー路線が2路線出ています。明日、乗車の予定ですが、今夜の宿を決めていません。とりあえず、このナロー線に乗って、気に入った町で泊まることにしました。乗り場は駅舎を出た左手にあり、ヤードが広がっていて客車が留置されています。そ

の片隅にホームがあって、その手前に小屋があります。切符は売っていません。時刻表には無人駅の表示があるので車内で買うのでしょうか。小ぶりの緑色のDLが客車を2両引いて到着しました。お客を降ろすと、引き上げて客車を1両切り落とします。そしてホームに戻って、機回しをしてから8分遅れの18:21に発車しました。立客はいませんが、買い物帰りのお客や学生が結構乗っています。生活路線のようです。

機関庫を過ぎると国鉄の本線に合流しました。なんと3線軌です。国鉄は電化単線標準軌。こちらは760mm非電化。本線の途中で突然分岐します。ナロー線から進入する側には安全側線がありました。車掌が車内を回って、切り取り式のきっぷを次々と発行してゆきます。運賃が安いのでとりあえず終点まで買っておきました。36Kc

森の中へ進入して、駅へ停まります。どこへ帰るのかお客が数人降ります。森を抜けると畑。ナロー線なのでこまめに急カーブを繰り返します。だからといって遅いわけではなく結構スピードを出してカーブでは振られません。集落が見えてきてNova Vcelniceに到着しました。多くの人降りますがそんなに大きな町ではないので下車は見送ることにします。

畑と森を繰り返して、Kamence nad Lipouに18:49に到着しました。駅前にレストランがあり、比較的大きな町なので、ここで降りることにしました。でも駅は町外れです。



201レ Kamence nad Lipouにて



ナロー路線 Jindrichuv Hradecにて

バスターミナルがある場所が町の中心なのでその方向へ進みます。しかし人がいません。バスターミナルに着いたのですが、バスも人もいません。それもそのはずでバスはほとんど発車が終わっていたのです。もう手元の現金がないので片隅にあるATMで現金を下ろします。助かりました。

町の中心の広場の脇にホテルがありました。扉を開けるとレストランの案内はあるのですがフロントはありません。でも部屋番号の案内はあります。たまたま男の人が入ってきたので声を掛けると携帯電話でどこかへ電話を掛けてくれました。そしてここで待てと言われます。しばらくすると女の人が入ってきて、男の人が声を掛けてバトンタッチされました。あるひとつの扉を開けるとオフィスが現われて、ここがフロントのようです。値段表を見せられ、朝食は付けますかと聞かれましたが、明日の列車が早いことを言うときりにバスを勧めます。シャワー付き693Kcでした。

チェックインを終えると、よく見ると机の上にレセプションと書いてあり、呼び鈴がありました。本当はこれを押し人をお呼びようです。夕食をとりたいのでレストランを聞くと、このホテルの地下にあるといいます。入口を教えてくださいました。いったん部屋に入り荷物を置いて夕食を取りに地下へ降ります。レストランの切り取り式のきっぷ

I	II	III	IV	V	VI	2
1	VII	VIII	IX	X	XI	3
1	JHMD 03					6
2	* 560175					7
3	vozdňakovská místní kolej s.o.					8
4	www.prd.cz tel. č. 541 165					9
5	Jízdenka					0
2. třída osobní vlak, platí 1 den						
8.	01-06km	8. Kč				
10.	07-10km	10. Kč				
12.	11-15km	12. Kč				
16.	16-20km	16. Kč				
20.	21-25km	20. Kč				
24.	26-30km	24. Kč				
28.	31-35km	28. Kč				
32.	36-40km	32. Kč				
	41-50km	36. Kč				

扉を開けると暗い。明かりはろうそくだけで、とりあえずビールを頼んでメニューを見るとグリルレストランのようで、真ん中のかまどで何か焼かれています。ポークグリルと付け合せはジャガイモを頼みます。豚肉もジャガイモもおいしかったが、ジャガイモ3個はとても食べ切れなかった。ちなみにほかにもお客が何組もいて、皆なぜかドイツ語を話していました。

## 2007年6月15日(金)晴れ

6:00に玄関へ降りてゆくとフロントの女性がちょうど鍵を開けていました。その場で鍵を渡して外へ出ます。バスターミナルを過ぎて駅への坂を下ると既に何人もの人とすれ違っています。車も走っていて、朝は皆早いのです。途中の生協も朝は7時から開店すると書いてありました。

駅に到着し待合室へ入ると、ここは有人駅で切符を売っています。窓口の営業時間は6:20からで、さっそく切符を購入します。もう一路線の終点の駅を告げると補充式乗車券を切ってくれました。40Kc ちなみに駅員は子供を抱えたお母さんで、有人と言っても委託駅でした。

Kamence nad Lipou 6:27発の201レはDLが1両の客車を引いてやってきました。既に学生や用務客が少し乗っています。各駅で乗客を増やし、本線と合流する1つ手前の駅で箱を開けて車掌が電話をしています。おそらく共用区間の進入の許可を取ったのではないのでしょうか。

Jindrichuv Hradecに7:08到着します。乗



3線軌条

り継ぐのは7:28発250レで、オーストリア国境近くの町へ行くもう一路線の終点Nova Bystrice行き。この駅はホームが1本しかありません。しかし、ホームから何本かの留置線が併行していて、隣の線路にDLに2両の客車と1両の貨車を連結して停まっています。

機関士に確認すると、Nova Bystrice行きとの事。ホームに来ないからと待っていると乗り遅れるところでした。1両には林間学校なのか学生が満載。貨車には学生の荷物と自転車が載せられました。

時間になると発車します。また国鉄の本線に合流し、3線軌を進みます。先ほどの左への分岐点を通り過ぎ、その先で右側に分岐しました。ここもナロー線から進入する側には安全側線があります。速度が落ち、カーブを右に左に切りながら丘陵地を登ってゆきます。

突然ポイントが現われて、引込み線が工場に吸い込まれていきました。森と畑を繰り返しながら、右に左にカーブを切りながら勾配を上がってゆきます。途中の集落が広がる駅で学生は降りてゆきました。天気は曇りになり、すこし霧が掛かっています。そのうち、杉林の中を走ることが多くなり、森の真ん中で突然停車しました。なんと駅名票のみの停留所があります。

終点が近づくと湖が見え、その周辺はホテルやキャンプ場が広がっている。家が増えてくると8:44に終点Nova Bystriceに到着しました。やはり、駅は町外れのように、中心へは坂を下りて行くようです。すぐに機回しが



補充券



始まります。駅舎に切符を買いに行くと、窓口には若い女性が座っていました。Obratanまでのきっぷを購入すると、Jindrichuv Hradecまでの硬券を出されました。もう一度言うと、これしかないという仕草をします。硬券は持っていなかったのですが、これでもいいやと思購入しました。28Kc

251レは9:00に発車しました。帰りは結構乗客があり、湖畔のリゾートの駅からは自転車旅行の家族が乗車します。自転車は貨車に載せられました。車内用の切り取り式の乗車券の他に自転車用持ち込み券を補充券に記入していた。ちなみに車内用の切り取り式の乗車券は種別により色が違います。いずれも赤や緑や黄色など鮮やかな色なのです。

途中から少しずつ乗ってきました。そして森の中で突然急停車すると。線路を林間学校の生徒たちが歩いていたのです。なんと背負っていた荷物を貨車に積み、客車に乗り込んできました。ずいぶん強引な乗り方です。

国鉄線に合流する手前の駅で自転車旅行の家族連れが降りました。車掌はボックスの中の電話に掛かっています。本線進入の許可を取っているのでしょうか。国鉄線に合流してスピードを上げるとJindrichuv Hradecに10:16に到着しました。33Kmを76分掛かりました。

飲み物が切れたので駅前に出しているコンテナハウスの売店で飲み物を買います。冷蔵庫には鍵が掛かっていましたが、おばあさんが中から出てきて鍵を開けてくれました。

Jindrichuv Hradec 11:05発208レは、DL



18411レレ Taborにて



251レ Jindrichuv Hradecにて

が2両の客車を引きます。車内は座席が埋まるくらいです。本線を疾走し、ナロー路線に入ると森の中や畑の中の停留所で少しずつ降りてゆきます。天候が回復してきて晴れてきました。Nova Vcelniceでまとまった下車があり、Kamence nad Lipouでは幼稚園児が降りました。

ここで30分ほどの小休止。DLのエンジンも止まって、乗務員も駅舎に入っていきます。ちょうどお昼時なのですが、ランチを食べるには時間が無いので駅前のレストランでビールを1杯をいただきました。会計をして駅へ戻ると交換列車が到着して、こちらエンジンも掛けて発車します。森と畑を繰り返しながらナロー線らしくこまめにカーブします。

こんどは途中駅から少しずつ乗車してきます。終点のひとつ手前のObratan zastavkaでほとんどの人が降りました。ここのほうが街の中心のようです。そして終点のObratanに12:59に到着です。国鉄駅前に線路とホームが1本と、申し訳程度の屋根があって、駅の案内が出ていました。ヤードは少し手前にあって、到着した列車はお客を下ろすとゆっくりと推進運転で戻っていきました。

Homi Cerekev方面へはしばらく無いので、いったんTabor方面へ往復してきます。13:02発の18426レはレールバスの単行で、5分遅れてやってきました。遅れを取り戻すように飛ばすこと。脱線するかと思いました。Taborには5分遅れの13:32に到着です。

駅横の郵便局で昨日買った鉄な絵はがきを

出します。この郵便局の外側になぜか1面1線のホームがあって、電気機関車牽引の客車列車が停まっていた。本線とは別になっているのが不思議に思っていたのですが、後で調べると電化方式が違って、元は田舎電車が走っていて、途中には道路と鉄道の併用橋があるようです。(秋の旅行で乗車済)

昼飯を買って14:10発の18411レに乗車するのですが、いったいどれが乗車列車なのか見当が着きません。何せ、レールバスの列車の編成が何編成も乗客を乗せてその辺に停車しています。駅員に聞いてもその辺りと指を指すだけ。結局車掌に確認して、サボをもう一度確認してから乗車しました。

Chynov駅は工事中で、どうやって交換するかを見ていると、私の乗った列車が先着して、客扱いを行って発車。しかし、構内の外れで停車して、側線へバックで進入します。すると交換列車が本線に進入して来ました。そして、側線から発車という手順でした。

Pacovに着くとほとんどの乗客は降りて接続のバスに乗り換えて行きます。発車して丘陵を越えるとまた町が拡がります。Pelhřimovから乗客が増え始めました。いつの間にか20分遅れていて、本線の接続列車との接続時間を越えています。間に合うのでしょうか。

ちょうど眼下に本線との乗換駅が見えてきました。Ωカーブで勾配を下って行きます。ひとつ手前の駅で地元の人ほとんど降りてしまいました。ここのほうが街の中心に近いのでしょうか。残ったのは旅行者だけで、Horn



i Cerekevに20分遅れの16:15に到着です。

乗り換えの急行は、昨日のバス代行区間に間に挟むので遅れて来るはず。予想通りR661レは20分遅れて到着して、16:17に発車しました。コンパートメントに収まり、車窓は丘陵を何回も越えてゆきます。

谷底のKoslec u jihlavyでTelcへ向かう支線を分岐します。乗り換え客が降りてゆきますが、なにせ運転本数が少ない路線なので、すぐに接続はありません。

Jihlavaでスイッチバック。ここからは非電化になるのでDLに付け替えます。出発すると谷筋を遡ってゆき、OkřiskyでZnojmo方面の路線と分かると、丘陵地を右に左にカーブを切りながら越えてゆきます。したがってあまりスピードが出ません。勾配を下って、支線と合流したSřeliceから複線となり、スピードが上がりました。それでも終着Brnoには23分遅れの18:57に到着です。着いた場所が構内のはずれで、駅舎まで少し歩きました。

今日のホテルはGrandhotel Brnoで、すでにネットで予約してあります。高級ホテルなのですが、割引になっていて中級ホテルと同程度の料金で泊まりました。すぐにチェックインし、部屋に入ります。ちょっと古くさいですが、部屋は広くバスタブもあり、私にはまったく問題がありません。

夕食を食べに外へ出ます。旧市街を一回りしてレストランに落ち着き、ビールを飲んでステーキを食べましたが、今回の旅で一番高くって一番味が悪かったです。〈つづく〉

